



## ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

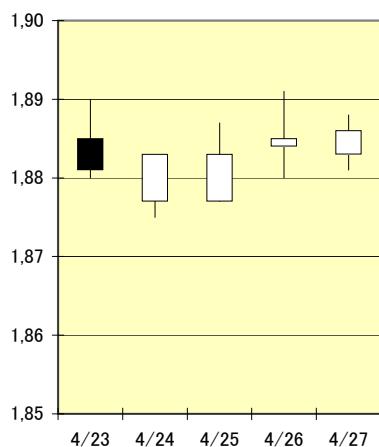
UFJ

## 1. Market Rate

			4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	1,8810	1,8830	1,8830	1,8850	1,8860	+0,0010
	USD/YEN	Spot	81,18	81,36	81,29	81,01	80,29	-0,71
	EURO/USD	Spot	1,3157	1,3194	1,3220	1,3240	1,3258	+0,0018
	REAL/YEN	Spot	43,16	43,20	43,17	42,97	42,57	-0,40
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,84	1,77	1,81	1,76	1,69	-0,07
		1Year(p.a.)	2,16	2,16	2,19	2,19	2,16	-0,03
	Real Interest	6MTH(p.a.)	8,48	8,43	8,44	8,40	8,32	-0,08
		1Year(p.a.)	8,49	8,42	8,42	8,38	8,29	-0,09
Stock	Bovespa		61,539,38	61,971,14	61,750,38	62,225,35	61,691,21	-534,14
Bond	EMBI+(bp)		187,00	184,00	184,00	185,00	187,00	+2,00
	Global 40		132,750	132,900	132,850	132,600	132,750	+0,1500

\* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。

## 直近5営業日U\$/R\$推移



## 2. 市況、トピックス ( As of abr-27 )

## [来週の予想相場レンジ]

1.87～1.92

## [来週の為替市場注目点]

今週も欧州発の外部要因に振らされる場面が見られたが、週後半はCOPOM議事録を受けた追加利下げ観測の高まりからレアルの上値の重い展開が続いた。前週までコンスタントに見られた中銀による介入だが今週は3回のみに止まり、スタンスの変更が窺える。1.90を若干下回る現状の水準は政府・中銀にとって“居心地のいい”レベルであり、来週も同水準を上回るレアル高の流れが認められる場合に限り介入が行われるであろう。一方で過度のレアル安はインフレを加速させるリスクがあり、一方的なレアル安も見込みにくい。来週も基本的にレンジ相場を予想するが、外部要因による相場の変動には引き続き注意が必要であろう。

- ・ 伯インフレ指数:CPI IPCS(2日)、月間FIPE CPI(3日)  
伯週間貿易収支(30日)、PMI製造業景況指数、月間貿易収支(2日)  
伯鉱工業生産(3日)、PMIサービス業(4日)
- ・ 米個人所得・消費支出、シカゴPM景況指数(30日)、建設支出(1日)  
米ISM製造業景況指数(1日)、ADP雇用統計、製造業受注(2日)  
米ISM非製造業景況指数(3日)、雇用統計(4日)
- ・ ユーロ圏:ECB定例政策理事会、ECB総裁定例会見(3日)  
ユーロ圏:ギリシャ国民議会選挙、フランス大統領選挙・決選投票(6日)

## 【レアルは欧州発の外部要因から高下するも、追加利下げ観測の高まりを受けて週後半は上値の重い展開】

今週の為替相場はU\$1=R\$1.8850で寄り付いた。週末22日に行われたフランスの大統領選挙で現職のサルコジ大統領が劣勢に立たされたことに加えて週明けの23日には財政再建を巡る与野党間の意見対立を背景にオランダの内閣が総辞職を申請するなど欧州の政治不安に端を発した欧州債務危機再燃への懸念を背景に週初から“リスク資産”売りが強まり、レアルも1.8900まで売り込まれた。しかし、翌24日にはスペイン、イタリア、オランダの国債入札が順調に消化されると一転、欧州債務懸念が後退しレアルも買戻しが優勢となり週間高値となるU\$1=R\$1.8750まで反発した。週央にかけてはブラジル中銀の介入等でレアルは再び1.88台まで押し下げられたが、米FOMC後のバーナンキFRB議長会見で追加緩和の可能性に含みを持たせる発言が伝わると、レアルはやや買戻された。翌26日早朝には注目の金融政策決定会合議事録が発表され、インフレの落ち着きを背景に更なる利下げの可能性が示唆されると一気に追加利下げ観測が強まり先物金利が急落。レアルにも売りが殺到する中、週間安値となるU\$1=R\$1.8910を付けた。

本日の為替相場はU\$1=R\$1.8830でオープン。9:30に発表された米国の第1四半期GDP速報値が予想を下回ると対主要通貨でドルが売られ、レアルも10時前に本日のレアル高値となるU\$1=R\$1.8810を付けた。その後は昨日のCOPOM議事録を受けた追加利下げ観測の高まりから、市場では今後2回の会合について追加利下げを織り込み始める中、レアルは次第に売り圧力が強まる展開となり、11時前には本日のレアル安値となるU\$1=R\$1.8880を付けた。その後は材料出尽くし感から1.88台半ばで小幅な値動きとなった。午後に入つても同水準での揉み合いが続く中、15時過ぎに1.88台前半までレアルが買われたところで中銀によるオーバーインフレーションが実施され再び1.88台半ばまで反落し、結局U\$1=R\$1.8860で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。